

- 左手がつかなくなったときの“休み時間”を利用して、次の練習もしてみてください。
白玉に棒の音符を「二分音符」といい、「四分音符」2コ分の時間、音を伸ばします。
白玉だけの音符は「全音符」といい、「四分音符」4コ分の時間、余韻をのばします。

譜例-16

拍子：1 2 3 4 1 2 3 4 1 2 3 4 1 2 3 4

- 前ページの譜例-15を、3~5回くらい休まずにくり返せるようになったらしめたものです。

4、メロディーをひきましょう。（その-1）

- さて、いよいよメロディーを弾くことにしましょう。
譜例-17-aは、譜例15の前半2小節です。譜例-17-bと比べて見て下さい。

譜例-17-a

ラ シ ド シ ラ

※譜例-17-aと譜例-17-bの、破線カッコで示したA,B部分は同じつながりの音です。

異なることは、カッコ最後の「ラ」が4分音符か2分音符かの違いです。
2分音符は、4分音符2つ分余韻をのばします。

ラ シ ド シ ラ

その前に、1弦の開放音「ミ」を2コつけた譜例-17-bは「荒城の月」冒頭2小節になります。

- それでは、本格的に「荒城の月」のメロディーをひく練習に入りましょう。
譜例-18は「荒城の月」の前半8小節です。

- 新しい音（*印）があるので、音のある弦とフレット数を確認して下さい。
レは2弦の3フレットの音、ラは3弦の2フレットの音です。
音符横に指定した指で弦を押さえます。

同じ音型 *レ

同じ音型 *レ *ラ

- *コツは、2つの段の後半2小節を回数多く練習することです。
また、楽譜を絵的に“眺めてみる”ことは、同じ音庫とても役に立ちます。